

# 佐用高等学校 同窓会報 塔 陵

発行所  
兵庫県佐用郡佐用町佐用260  
兵庫県立  
佐用高等学校同窓会  
電話 0790 (82) 2434 (代)  
FAX 0790 (82) 2719  
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~sayo-hs/>  
印刷所  
(資) 谷本弘輝堂



サンテレビ『はりまサタデー9』「家政科 夢茜トマトジャム」取材風景

## 衆禍波転



同窓会長 谷本 学

高校21回生 (昭和四十四年卒)

大撫山から見る朝霧は幻想的なシルエットを写し出し、佐用町のシンボルである大イチョウも黄色の絨毯をびっしり敷き詰め、たくさんの人々が秋を堪能していました。

自然がいつぱい、見どころ満載の佐用町ですが、今年の秋は少し趣が違っていました。訪れる人々の顔にはマスク、マスク。中国から拡がったとされる新型コロナウイルスの感染は一年を経ても、留まるどころかますます猛威をふるい、世界中に感染を拡げ、今や第3波の到来とも言われ、日本での感染者重症者の数もウナギ登りに増え続けています。

このような厳しい環境の中ですが、同窓生の皆様にはお健康やかに、恙なく日々お過ごしのことと拝し、お喜び申し上げます。母校、佐用高等学校は令和2年度に予定されていたスケジュールがすべて見直され、縮小、変更もあり、正常な学校運営がままならない状況にあるでしょう。大きな声での元気な挨拶も、明るい笑い声も、部活動の掛け声もなぜか淋しく聞こえてきます。

私たちの同窓会総会も、例年7月に開催していましたが、役員会や学校側との協議の上、今年度は書面決議による総会に代えて議決していただき、2年度がスタートいたしました。

残念なことに、新しい年を迎えても、なかなか先が見通せない現状が続いております。しかし、鎌倉時代の僧侶、親鸞という人の言葉に「衆禍波転」とありますように、人生とは、さまざまな困難が生じるものですが、その困難さえも豊かに生きるための糧へと転じ変え成していくことができるものでもあります。来年度の「塔陵43号」ではコロナに負けない佐用高校生の活躍が、大きく紙面を飾ってくれる事を願って止みません。

いよいよこれから冬本番を迎え、今まで経験したことのないこれまで以上の体調管理と感染対策が求められてきます。同窓生の皆様には、より一層健康に留意され、ご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。

# 「コロナとともに」



校長

西坂美樹

高校第31回生（昭和五十四年卒）

塔陵会の皆様には、平素より、本校教育活動にご支援ご協力いただきまして誠にありがとうございます。

さて、昨年はコロナに始まりコロナに終わると言った「新型コロナウイルス」を抜きには語れない1年でした。

昨年2月27日に安部前総理大臣より、突然新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国の学校一斉の臨時休業の要請があり、兵庫県の県立高等学校においては、2月末日より5月末日まで登校可能日等は数日あったものの、臨時休業が実質3ヶ月間続きました。世界保健機構WHOは3月11日に、ついに、世界的な大流行を意味するパンデミック宣言をしました。

4月の新入生の入学式については、前日になって、社会が新型コロナウイルスのため混乱している中なので、式典として執り行わないようにとの指示が出ました。すでに新入生を迎えるために用意していた、幔幕や看板国旗・校旗等すべて片付けました。簡素化された「入学行事」として執り行わなければならず、大変無念な思いをいたしました。

5月のゴールデンウィーク前に感染者は急増し、「ステイホーム」でとにかく家に居ることが求められました。その間、学校はもちろん、社会の機能は大きく後退、停止してしまいました。私たちの生活様式も手洗い、消毒はもちろん徹底して3密（密集、密閉、密接）を回避することが求められました。全国民による取り組みがなされ、5月末には緊急事態宣言が解除され、6月1日より学校再開に至りました。

しかし、6月中旬までは3密を防ぐために半分の授業しかできませんでした。佐用高校

の伝統行事である「塔陵祭」も6月から9月に延期し、体育大会を9月から10月に変更いたしました。夏休みは10日間短縮し、授業時間の確保をいたしました。新型コロナウイルスの感染者は8月のお盆頃をピークに急増し、再び社会を混乱に導きました。

一方、部活動関係はほとんど中止になり、3年生にとつて今まで頑張ってきたことを発揮できないまま、現役引退をすることとなりました。一部、夏休み中に代替試合と称して地区大会を実施したところもありますが、十分練習を積んでの大会にはならず、多くの生徒達が不完全燃焼で終わったことは誠に残念でなりません。

9月に入って、少し感染者数は減少しましたが、「塔陵祭」を実施できるほどには治まらず、残念ながら中止せざるを得ませんでした。しかし、今まで「塔陵祭」で行ってきた家政科の「フアッションショー」は家政科の生徒達が目標として熱心に取り組んできた行事です。これだけは是非実施できないかと模索し、佐用町の絶大な協力を得て、会場を左用文化情報センターに移して、保護者の皆様に見ていただくことができました。生徒達の手作りの本当に素晴らしいフアッションショーをしてくれました。

10月末に実施した体育大会も来賓・保護者の皆様の見学は感染拡大防止の観点から遠慮願いました。競技内容も密になる競技はできるだけ簡素化し、大幅に変更・短縮して実施しましたが、生徒達は元気の演技を披露してくれました。

進路関係では、今年は就職で大きな変更点がありました。学校が5月末まで臨時休校であったことや、社会経済が停滞していたこと

もあり、例年9月中旬に就職試験が開始されていたのが、1ヶ月遅れの10月中旬に開始されることになりました。また、求人数については昨年より2割減となりましたが、就職希望者の数が学級減の影響もあり、例年より20人ほど少なく、求人倍率的には大きな影響はありませんでした。進学については、若干日程が遅くなっていますが、例年とほぼ変わらない日程で現在進んでいます。しかし、新型コロナウイルスの感染者や濃厚接触者になると、2週間の入院治療、自宅待機が求められます。もし、それが受験日と重なった場合の対応など懸念される課題が山積みになっていきます。自分の身は自分でしっかり守ることが求められています。

そのような中で、今、第3波、第4波が押し寄せようとしています。5月のように人の移動を完全に止めての対処は、経済に対する代償が大きく、これからは経済活動を継続しながらの対応策が求められます。新型コロナウイルスとの戦いは続きます。今年のオリンピックの開会も危ぶまれます。ワクチンや治療薬の開発・接種にはまだまだ時間がかかると言われています。私たちは、「コロナとともに」生きていくことを前提にこれからの社会生活を送っていくかなければなりません。学校生活においても、実技や実習を伴う教科活動、集団で行う文化祭や体育大会、部活動など感染症対策のために、大きく制限されることとなります。このため、本校でも、マスクや手洗い、換気といった基本的な感染症対策に加え、感染拡大リスクが高い3密を徹底的に避け、「新しい生活様式」を取り入れた、学校生活に移行しています。

社会は今なお新型コロナウイルスのために混乱し、不安で安定しない、先の読めない世の中になっていますが、私たち教職員一同、力を合わせて、西播磨地域を支える人材づくりに邁進していきますのでよろしくお願ひします。

最後になりますが、塔陵会の皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念するとともに、今後もなお一層の母校へのご支援とご協力を賜りますようよろしくお願ひいたします。



# 特 志 寄 稿

## 学校のIT化

佐用高等学校情報委員会

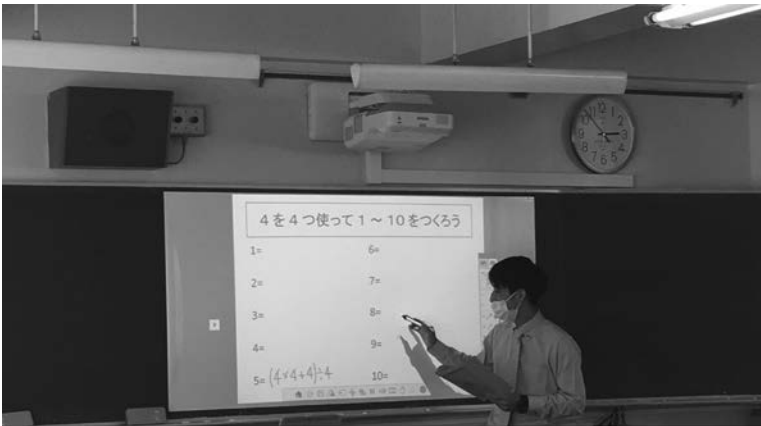
鎌 内 威 至

(高校38回生)

今年、学校のIT化が急速に進みました。

学校にタブレットが120台以上導入され、Wi-Fi環境が充実しましたので、教室で情報検索やコンピュータを用いた授業を展開できるようになりました。これまでは、コンピュータを使うならコンピュータ室というイメージでしたが、コンピュータ室で行っていた授業を教室でできるようになりました。また、各クラスの教室にプロジェクタが設置されたので、得た情報をスクリーンに投影することができるようになりました。プロジェクタとパソコンが無線でつなぐことができるようになったことで利便性が高くなりました。これまでも、教室にプロジェクタやスクリーンを持ち込んで授業することはありましたが、機材の運搬に手間がかかり、頻繁にはできません

んでした。プロジェクタとタブレットが無線でつながることで気軽に情報を表示することができるようにな



り、視覚、聴覚に訴える授業が実施しやすくなりました。また、このプロジェクタには電子黒板機能があり、投影した写真や図に書き込んだり、その内容を保存することもできます。各クラスの教室だけでなく、図書室や理科の実験室、専門学科の実習室の一部でもインターネットに接続可能なので、様々な教室で活用できるようにになりました。生徒が作った作品の保存場所も、これまではコンピュータの中や、校内のサーバに保存していましたが、インターネット上に保存することができるようになりました。今後、新型コロナウイルスの影響で再び休校を余儀なくされることがあっても、クラス担任や教科担当の者から生徒にメールなどで課題の指示や提出の指示をすることができ、生徒からも質問できるようになりました。さらには、オンラインでの授業も可能になりました。

一方、課題もあります。教室で生徒が一齐にインターネットを使い始めると通信が遅くなることがあるので、通信環境の安定が求められます。自宅にインターネット環境が無い家庭の生徒には別の対応が求められます。便利な使い方を教員たち全員が知っているわけではないので、教員たちの研修も必要になってきます。



文章による説明より、図や写真、映像を用いた説明の方が学習内容の理解が進むと言われています。また、ICTを用いれば、国内をはじめ海外の学校、研究施設ともつながることができ、生徒の興味、関心や意欲、知識を一層深めることができます。これからの時代に向けた環境づくりが一步進みました。令和4年度からは高校入学前に各自でタブレットを購入することになっています。さらなる教育の情報化が期待されます。

# 昭和、平成、令和を生きて 佐用高校の絆は今も

春名 公雄

高校6回生（昭和二十九年卒）



私は昭和26（1951）年4月佐用高校普通科3組に入學し、29年3月に卒業しました。当時の日本は25年6月朝鮮戦争が勃発、27年4月に対日講和条約の発効をもって6年8カ月に及んだ占領期が終わり主権を回復、国際社会に復帰し、経済自立・発展の道に歩を進めた頃でした。

私は家が石井村若洲でしたが、父が同校農業科の教諭をしていましたので、父と一緒に1・2年生の間は高校からすぐの塔の元の1軒家、後の約1年余は中町のある家の離れを借りて、通学しました。現在、佐用高生は郡内通学生は約30%だそうです。当時は殆どが郡内通学生でした。主な手段は自転車、最も速い者は2時間近くかかり、大変でした。3年間を通じ、クラスの編成替えはなく担任は国語担当の繁延照夫先生でした。私は大学進学を目指していましたが、父が教諭でしたので試験の

成績も父の方が先に知っているとしような状況で、勉強中心の生活でした。そんな中で、想い出といえば文化祭や運動会でしょうか。

部活は歴史クラブで、3年生の12月に2日間開催された文化祭では「目で見る郷土史」と題して出品することとし、その責任者でした。郡内各地の史跡や平福・田住家の旧平福領の古文書をカメラに収めて展示したり、古墳模型の制作など準備が大変でした。文化祭は他所の諸先生、一般町民の方々等多くの人が見学に来られるイベントで盛況でした。

3年生の秋の運動会は28年10月12日（月）に行われました。高校最後だから大きな事をやろうというので、古代から現代にいたる服装の変遷を見せる仮装行列を行うことになりました。3年普通科はほぼ全員が何かの仮装を行うこととし、神武天皇に始まり、私は明治時代の軍人役をしました。写真の「再軍備反対」のプラカード姿がそれです。

高校時代は映画が大きな娯楽でした。上町に佐用劇場があり、試験が終わった後はたいい映画です。2本立てで入場料は60円で

した。時には姫路まで足を運びました。東宝映画「生きる」は監督・黒沢明、主演・志村喬、胃がんに侵され余命半年と知った主人公が市民のために造った公園のプランクに乗って死を迎えるシーンは今も覚えています。

私は滋賀大学経済学部を卒業して、昭和34（1959）年3月同和火災海上保険株式会社（現、あいおいニッセイ同和損害保険会社）に就職しました。会社では「置かれた環境でベストを尽くす」「現状維持は即落第」を信念に見習社員に始まって殆どの役職を経験しました。同社副社長のあと関連会社社長を2年務めて、平成13年4月に神戸に帰りました。

現在「のぞみ会」という会があります。これは佐用高校第6回普通科卒業生で阪神間在住の有志の集まりで、3、4カ月毎に神戸三宮の和食料理店にお昼に集まってい



（右から、横山剛一さん、筆者、高見文夫さん、春井正資さん。前は繁延先生）

ます。以前は人数も多かったのですが、現在は8名で伊藤正廣、高見文夫、武内徹一、横山剛一、重内（旧姓、吉永）臯月、中島（小林）多鶴子、廣山（安積）ちかひ、それに私です（敬称略）。皆それぞれ教職、国家公務員、医師、会社経営その他、昭和・平成・令和の時代を頑張って生き抜いてきた素敵な人物ばかりです。今も、母校や故郷のニュースには関心があり、よく佐用高校時代の想い出に花が咲きます。

私は若い頃に読んだサムエル・ウルマンの「人生行路の贈り物」と題する詩の中の「人生のどんなところでも 気をつけて耕せば豊かな収穫をもたらすものが 手の届く範囲にたくさんある」という1節を心に刻んできました。

振り返って観ますと、青春時代に培った精神・身体・知識などは人生の土台になっています。若い頃は、他人に迷惑をかけること以外、何でもやってみることで。何事も勉強です。蓄積した経験や知識ほど確かなものはありません。その経験や知識はいつか役に立ちます。佐用高生の方たちには、高校生活を大事にしてほしい、と思います。

佐用高校は創立110年になるとか。まことにお目出度いことです。これからも同校が発展を続けていくためには我々同窓生の支援が大きいと思います。会費や寄付なども大きな力となっています。自分を育ててくれた母校をこれからも可能な限り支援していきたいと改めて思っています。

# 「31年間勤めて」

## 西尾 元 秀

高校31回生（昭和五十四年卒）

私は、40年前に佐用高校に在学してました。在校生の状況については、20年前までは8割近くが佐用郡内の中学の出身であつたので、私が在学していた時は、さらに佐用郡内の出身者が多かつたのではないかと思います。

しかし、現在では佐用郡内の出身者が3割で、佐用郡外の出身者が7割となつている現状は、時代の移り変わりとしても驚くばかりです。少子化が進んでいることは理解していましたが、現実としてここまでとは思っていませんでした。

さて、私は現在姫路市保健所の職員として勤めていますが、今年度を以って退職となります。獣医師の専門職として、平成2年に採用されてから31年勤め、ほぼ平成の年号と共に過ごしたことになります。

今思うと、昭和に旧佐用郡南光町の田舎で育つた私にとっては、平成の時代は気忙しく、余裕を感じることなく窮屈な感じがしました。

働き始めた頃は、今のようにはパソコンが1人1台ではなく、ワープロが何人かに1台あつた状況で、

仕事の流れ方もまだまだ余裕を感じられていました。以前は、郵送での報告が多く期限を過ぎて報告がまだですけれど、連絡を受けてから、郵送しましたと返事をしてから、報告書の作成に取り掛かり郵送しても特に問題にならなかつたので、まだまだのんびりしていたことが懐かしく思います。

今では、報告の関係はメールでのやり取りが多くなつていて、以前のように郵送しますは通じなくなつています。

姫路市保健所に入所して、一番最初に担当したのが今の動物管理センターで狂犬病予防員でした。4月・5月に姫路市内の集落の公民館・公園・神社・寺を中心とした場所、巡回による狂犬病予防注射を行つていました。姫路市といえども都市部と田舎（山間部、海辺）と隔々まで細かく巡回して、市民の方と直接出逢ふことで色々なお話をしたりして、良いコミュニケーションの場でありました。

処分しなければならぬので「殺し屋」と、市民から厳しい言葉で言われたことが忘れることができませぬ。

食肉センターの検査員として働いていた時は、現在のように衛生管理が重要視されずに特に温度管理が十分でなかつた施設では、夏の暑さの中での検査は汗をかいて体にこたえたことが一番記憶に残っています。

食品衛生監視員の時は、飲食店の営業許可、食品の苦情、食品の

## 近況

長年大手電機メーカーでエンジニアとして働いていましたが、常々、自身の技術を何らかの形で還元していきたいという思いがあり、その方法を模索していた最中フアラボと言う組織を知りました。

フアラボとは3Dプリンターやレーザー加工機など、デジタルからアナログまでの多様な工作機械を備えた誰もが使えるオープンな市民工房であり、世界に約2000拠点以上あるネットワークです。地域コミュニティに根差した物づくりのための工房施設とその集合体である国際的なネットワーク全体を指しています。

衛生管理、食中毒事件の対応などが主な業務でした。特に食中毒事件では、処分しなければならず担当するものには、一番精神的に厳しいものがありました。

姫路市保健所の勤務31年間での思い出を書いてみました。既に、昔話としか捉えられないこともあるかと思いますが、当時の保健所業務は、まだまだ厳しい環境にあつたことや時代の移り変わりに触れさせて頂き何か参考になれば幸いです。

## 竹田 一成

高校46回生（平成三年卒）



昨今、個人向け3Dプリンターやレーザー加工機などが3万円もあれば買える時代になり、インフ



ラの導入コストが急激に下がりました。多くの個人や新興ベンチャーがイノベーションを生み出すようになり、平成の終わり頃から大手企業の技術力を上回るような個人やベンチャー企業が出現し始めたことで、個の持つ力の可能をよりいっそう感じるようになりました。

そういった環境の変化を肌で感じるようになり、40歳からの次の20年は、地域活性の為に、得てきたものを還元しようと故郷である佐用にファブラボを作る決意をしました。

都市部ではなく佐用で始めた理由は、起業コストが都市部より遥かに少なく済み、活動そのものがネットワークを活かした取り組みであるため、中山間部という場所的なデメリットが少ないため、田舎で起業する方が圧倒的にメリットが大きかったからです。

ファブラボ西播磨は、長谷地域づくり協議会の協力を得ながら廃校になった母校、長谷小学校にて2017年3月にスタートし、もうじき丸3年になります。今は主に、神戸・北加賀屋（大阪）・山

口・佐賀・太宰府・宮崎をはじめ、台湾やドイツなど国内外のファブラボとも交流を持ちながら活動しています。

構成メンバーは元職場の同僚やファブラボの繋がりで知り合ったメンバーなどで構成されており、皆一線で活躍するエンジニアでありながら、同じような想いを抱いた同志で活動しています。

新型コロナウイルスの世界的蔓延で、世の中のあらゆる構造が一気に変化しました。アフターコロナの世の中は、生活も働き方も、価値観も大きく変わると思っています。

## 「若いうちの苦勞は、買つてでもした方が良い」とよく言われていました

㈱エネ・ルピア 代表取締役

福本修平

高校51回生（平成十一年卒）

口・佐賀・太宰府・宮崎をはじめ、台湾やドイツなど国内外のファブラボとも交流を持ちながら活動しています。

活躍の場として、都市部の優位性も薄れてきました。イノベーションを起こす為に、大きな組織や大企業に所属する必要もないと感じています。中山間部の過疎の町だからこそ有利であり、そこから起こすイノベーションの方が面白い。ファブラボ西播磨としてグローバルに活動して行く中で、佐用を良い意味で面白い町にしたいと思っています。

た。借金もあつたからです。そういった生活の中で、新しい学びがあり、様々な年代の方、今まで自分がお会いた事も無かつたような人々に会い、自分の職務を樂しむことにより状況は大きく変わりました。嫌いだった夜の仕事も辞める頃には楽しくなつており、退社を惜しまれるようになったのです。

今私は家族と沢山の方々のお陰で会社を設立する事ができました。今思いますが、失敗・挫折・借

金・悔しい、という一見マイナスイメージな出来事が転機になったと思います。世間では、いかに安定し、失敗しないように、誰にも好かれるように、何でも出来る人になるようにを求めるのではないのでしょうか。時には親にも大変迷惑も不安もかけましたが、失敗やマイナスの中に、成功やプラスの種があるのだと思います。

この塔陵のお話をいただいた時、私達30〜40代の人間が、今までに無い発想を持ち、既存の考えを壊していく為に、学ぶ事を書きたいと思いましたが、世の中はチャンスにあふれ、「もつと成功したい」と思う人へのみ道が開かれると思つています。佐用高校の在校生の皆様には、「失敗を恐れず、どんどんチャレンジをしてほしい」と思います。親御様にはその姿を応援し、自らも学び続けていただきたいと思います。世の中にはまだ見ぬ世界と、自分がお会いた事も無いような人との縁が待っています。

在校生の皆さん、一緒にチャレンジしましょう。最後に、このような場をいただき、本当にありがとうございました。

卒業生インタビュー

# 会社・自営・学校などで頑張っ ている卒業生を紹介します

公認会計士

谷口 悠一

高校49回生（平成九年卒）



谷口悠一さんは平成29年佐用駅前会計事務所とコバコ株式会社を設立され、自治体向けコンサルティンなど、地方からワクワクする仕事を創る後方支援を行っています。

① 高校生活は、どうでしたか。  
目立つタイプではなく、淡々とした高校生活を送っていました。今考えらるともう少しがんばれたところもあると思います。

② 卒業してから現在の仕事に就くまでについて簡単に教えてください。  
大学は工学部で自動車レースのメカニクスを目指していました。卒業後は自動車レースを行う会社に就職しましたが、レース活動の縮小により退職しました。その後、上月町役場に入り、佐用郡四町合併前に天文台勤務となりましたが、29歳の時に退職して、公認会計士の資格を取りました。

③ 今はどんな仕事をしていますか。

公認会計士、税理士として税理士法人の経営のほかにコバコ(株)を経営しています。専門のスキルを持つた方、地域の方、企業に勤めておられる方など、様々な属性の方が集まれる場所を提供しています。そして、新しいことに挑戦することに對して、自身が提供できる専門家技術を使って、新たなプロジェクトの立ち上げ支援を行っています。

④ この仕事を始めようと思ったきっかけは何ですか。  
佐用町でも人口の社会減が顕著になっていたので、仕事の多様性が少ないことがその要因の一つになっていました。そこで、仕事の多様性を増やすお手伝いができるのが良いのではと感じ、新しい事業を起す起業家の応援ができればと思いました。事業を起すには、その人の専門分野以外に、会計税務、法務、労務、市場調査、販売ルート開拓、ウェブ技術、広報など多岐にわたる専門知識が必要となります。どの会社にも会計税務は必要となることから、公認会計士に興味を持ちました。

⑤ この仕事のやりがいや魅力は何ですか。  
ここには、新しい取り組みにチャレンジしようとする人が集まり

お互いに共同して新たな事業を起こしたいと切磋琢磨しています。挑戦している人とともに時間を過ごすことが、自分にとって非常にワクワクしますし、代えがたい魅力です。

⑥ この仕事の大変なところはどこですか。  
この仕事に限った話では無いかもしれませんが、0からの起業であるため、お客様の開拓や会社の仕組みを作って行く必要があります。かなり大変ですが、とてもやりがいのある部分でもあります。

⑦ 楽しみながら仕事をするためのポイントは何ですか。  
自分自身も挑戦することと、無理をせず継続できる範囲で仕事をするのでしようか。挑戦することと無理をしないことは矛盾しているかも知れませんが、継続できなければあまり意味がないと思っ

ているので、楽しく仕事を継続できるように仕組みも含めて考えることをやっています。

⑧ これからチャレンジしてみたいことはありますか。  
地域において、町の中心にコバ

Work&Campのような施設を作るといってお話を他の地域でも数多く聞くようになっていきます。こういった事業に挑戦したい方がいらっしやいましたら、そのような方といっしょに他の地域でも展開していきたいと思っています。

⑨ 今後の目標を教えてください。

私たち自身も新しいことに挑戦しますし、また、佐用町やその他の地域で挑戦している方々を応援できればと思っています。そのため、まずこの佐用町で新たに挑戦する方が増えたらいいなと思います。また、日本の地方でも、ある程度稼げる事業が増えることが、地域経済の活性化につながると思っています。このような活動の一環として、佐用町で「さよう星降る町のビジネスプランコンテスト」が開催されます。

⑩ これから働きたい進みたいという後輩にメッセージをお願いします。  
好きな事を仕事にすることができると幸せです。もともと、全員ができることでも無い気がしています。自分自身もそうでしたが、人生の目標が見つからない人のほうが多いのではないのでしょうか。何かを見つけてはならないと思っ

うより、まずは、今やっていること、目の前にあることに全力で取り組んでみるのも良いかもしれません。また、好きなことを仕事にするよりも、得意なことを仕事にするのも一つです。私自身はいろいろと経験(回り道)をしました。が、すべてのことが、いま繋がって仕事にも繋がっています。20歳代までは、回り道が必要以上に恐れる必要は無いので、いろいろなチャレンジしてみてください。何かが見つかるといいかもしれません(何か見つかった方はコバコの利用券差し上げますので、ご一報ください)。

# 在校生 だより

## 「いのちを育む学び」を通して

第一学年 栗岡 ひなた

私たちの高校生活のスタートは、新型コロナウイルスの影響を受け、例年通りのスタートとはなりませんでしたが、入学してから休校の期間が続き、分散登校を経て動き出した一学期。楽しみにしていた授業や実習、部活動など、制限のあることが多く、残念な思いをすることが何度もありました。しかし、そのような状況の中でも授業や当番実習を通して学ぶことは少しずつ増えていきました。「農業と環境」の授業では、

スイートコーンの栽培管理の一部に関わり、収穫できたものを食べることでできました。また、鶏の孵卵実験も行い、命を育てることや、その命をいただくことについて学んでいます。人にとって、「食」は生きる上で最も大切なことであり、生命（いのち）を保つためには欠かせないことです。農業科

学科での実習では、「食」や「生命（いのち）」について考えたり、意識したりする機会が多く、私はそれらの機会を逃さぬよう、積極的に取り組んでいます。特に牛の世話するモオーモオークラブでの活動では学ぶこと、感じるものが多く、貴重な経験をさせていただいています。

モオーモオークラブでは、私が担当している子牛が一頭います。朝夕決めた時間に哺乳をしたり、牛舎や牛房の

掃除をしたりと、牛が過ごしやすい環境をつくることを常に心がけています。しかし、これらの活動も、ただ「育てる」だけではありません。牛も生き物なので、人間と同じく体調や様子を観察することも重要です。また、その他にも牛の美しさを競う大会である共進会に向けての勉強もし、大会で良い成績を残せるよう、努力しています。

牛の世話をする中で考えることがあります。それは、学校で産まれ、私たちが育てた牛は、いつか食肉となり、私たちに命をつないでくれるということです。食肉を私たちが食すことは当たり前のことですが、ひとつの牛の命が生きていたということを忘れず、感謝しなければならぬと思います。今の経験から牛の命や「食」について学ぶことは本当に多くあります。

このような大切な命であるのにも関わらず、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品があることも忘れてはならないと思います。日本では、残念なことですが、廃棄される食品の量は年間約六百四十三万トンと言われています。これは、茶碗一杯分を毎日捨てていることと同じになるそうです。食品を輸入にたよる一方で、多くの食糧を食べずに廃棄している現状があります。牛の世話に携わり、「食」について考

えるとき、食べられるものを捨てることに抵抗がないのか疑問に感じます。最後に、食べることは「人」を「良く」することであり、食を支える誰かの手があつてこそ、私たちは生きることができると思います。食べることは当たり前前のことですが、食べることができるといふことを当たり前と感じてはならないと思います。食べるものひとつひとつに「生命（いのち）」があると、食べるという行為に感謝の気持ちを持ってはならないということを農業

## 「さんフェアおおいた2020」 「二、」体育大会優勝

第一学年 寺田 美月

「さんフェアおおいた2020」  
十月二十四日に、大分県別府市で開催された「さんフェアおおいた2020」に視察に行きました。昨年度兵庫県開催の際に、私は運営スタッフとして参加しましたが、今年はずいぶん様子が違いました。「コロナ対策」のためには少人数での参加となり、各校の発表もリモートで行われました。

発表は同じような学科でもそれぞれ特徴があり、私と同じ家政科では、ファッションショーの他にも高校生力フェをやったり、地域の伝統を活動に取り入れていたりしていて、とても勉強になりました。また、展示スペースでは工業科のロボットや農業科の農作物、家政科のドレス、デザイン画、献立などが展示されていました。どれもとても見やすく展示されていて、今後の参

科学科で学ぶ中で強く感じました。また、私たちが食べるものは、食べられるために生まれ、食べるために育てられています。全ては人間の都合で、人間のため、人間の未来へとつながっていきます。だからこそ、私はモオーモオークラブの活動を通して、この一頭の子牛に愛情をかけ、大切に育てていきたいと思っています。これからも、農業科学科で積極的に学び、感じる力を養っていききたいと思っています。

考になりました。

自由時間に販売スペースに行くと、各ブースとも大きな声で商品の宣伝をしていて、接客もとても丁寧に行っていました。私自身販売に携わることが多いので、たいへん参考になりました。次回の販売活動の時には真似をしてやってみようと思います。

ステージ発表では、大分県の伝統芸能である「貴見城」を鑑賞しました。すごい迫力で圧倒されました。ファッションショーもありましたが、メインのドレスをはじめ、どの衣装も細部まで工夫されていて素敵でした。

「リモート会議」も行われましたが、急に指名されても、すぐに答えている人が多いことに驚きました。私は聞かれたことに少し考える時間をとって、答えるのが遅くなるのがよくあるの



で羨ましいと思いましたが。人が話しているの注意深く聞きながら、自分が話すべき内容を、短時間でも集中してしっかりとまとめておくことは、授業でも必要なことなので、身につけたい力だと思っています。

今回の経験を今後のイベントにぜひ活かしていきたいです。

「体育大会優勝」

「今年こそ優勝する！」

クラス全員で決めた目標です。そのためみんな一生懸命練習しました。特に力を入れたのは「綱引き」です。昨年敗れた悔しさを晴らしたいと、農業科の男子にも相手になってもらい

ながら、気合いを入れて練習しました。本番でも、先生方や二年の他クラスの応援もあって、気がつくくと決勝は二組同士の対戦になっていました。最高の気分でした。

玉入れも、リレーも、とても盛り上がりました。応援も、自分たちで団扇のデコレーションをするなど、クラスでの団結力を高めていきましたが、本番では二年全クラスを応援していましたが、クラスや学年が一丸となった結果、二組は「総合優勝！」四七七位を二年が占めました。ぜひ来年も二組が連続優勝して、上位をこの学年で独占したいです。

# Beauty Power

第三学年 大内 琳賀

高校3年間の集大成であるファッションショーでは実行委員として活動しました。私が実行委員になろうと思ったきっかけは思い出に残る最高のステージをつくりたいと思ったからです。ファッションショーの準備は2年生のころから始めてきました。ですが、今年度は新型コロナウイルスの影響で文化祭が中止と決定になったときはとても悔しかったです。ここまで、みんなが放課後や休みの日まで学校に来て衣装を作っていることや、家でも衣装作りをしていることを私は知っていました。だから、すごく悔しい気持ちとこのまま作った衣装を披露することなく終わってしまうのかと思いました。し

かし、たくさん先生方が協力して下さりホールを貸し切ってくれました。私はそのことを聞いたときとてもうれしく思いました。3年間ともに頑張ってきた最高の仲間とステージに立てると楽しみにしてくれている家族を笑顔にできる、また先生方にも自分たち一人一人が成長したことを見せることが出来ると思えました。私たちはその日に向けて再出発しました。実行委員の仕事はチームを分けることから始まりました。みんなが作った服を系統をあわせて絞り込むことが大変でした。また音楽編集もとても大変で完成したときはすごく達成感を味

わえました。他にもたくさん大変なことがありましたが、その苦難を乗り越えたのは周りの実行委員やみんなのおかげだと思います。私は本当に周りに助けられました。例えば、思うよう出来ないなかつた時、優しくアドバイスをもらってまとめてくれてその姿を見てもっと頑張ろうと思えました。また音楽編集や順番決めも何度も話し合いをしたり、リハーサル練習も何度もしたりして、歩き方も一から学びみんな努力を重ねてきました。

本番当日はとても緊張しました。本番直前まで練習をしてお互いに声かけあって私達は目標通り「みんなに楽しんでもらえるステージに」を実現できたと思います。他のクラスのみなさんもペンライトやうちわで応援してくれて私達も楽しんですることが出来、本当に支えられました。そして家族や先生方にも成長した姿を見せられたと思います。

ファッションショーを通じて団結してやり遂げる大切さや達成感を学ぶことが出来ました。それは、周りの応援、支えてくれたみなさんのおかげだと思います。最高の仲間に出逢えて本当によかったです。沢山指導をしてくださった先生方、見に来てくれた家族や実行委員のみんな、そして一緒に最高のステージを作り一生懸命やり遂げたクラスみんな、本当にありがとうございます。私はこの経験を生かしてこれからも頑張っていこうと思います。



## 母校だより

教頭 徳 永和 彦

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、長期にわたる臨時休業や学校行事の縮小あるいは中止を余儀なくされ、思うようなことができなかったのですが、本校生は明るく元気に生き生きと活動しています。家政科は、文部科学省「地域との協働による高等学校改革推進事業」の研究指定校に選ばれ、令和2年度より3年間、地域の課題解決を通して新しいカリキュラム開発に取り組みます。

部活動では、バドミントン部が2年連続県大会出場、男子ソフトテニス部が県新人戦個人戦出場、野球部が秋季西播地区親善大会優勝、写真部が春季県写真コンテスト出品を果たしました。家政科では、3年生が佐用町特産品「夢西トマト」を用いて産官学協働で開発した「夢西トマトジュン」が、西播磨フードセレクトショー2020で金賞を受賞しました。また、農業科組と家政科がTV局の取材を受け、両科の取組の一端を県内外に広く知ってもらう機会にも恵まれました。

就職状況では、今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、募集停止や削減企業が多倍し、求人数は昨年と比べ24%減、有効求人倍率も一気に悪化し1倍を切り、8月時点で0.93倍となっていました。しかし、本校は、毎年求人をお願いしている企業から昨年同様、求人を頂いており、中には生徒の希望に沿って求人数を増やして頂いた企業や新規に求人を頂いた企業もあり、大きな影響はありませんでした。学校紹介による就職内定者は、11月24日現在46名で、内定率は92%となっています。

進学状況では、夏から各種推薦型入試が実施され、12月7日現在、国公立4年生大学へ3名、私立4年制大学・短期大学へ9名、専門学校へ55名の生徒が合格しています。近年、入学金や授業料の減免を扱う入試制度に挑戦する生徒も増えつつあります。進路指導部と3学年団は、これらの入試に対応するため、各教科と連携して、夏以降早朝・放課後の補習や面接練習に加え、様々な個別指導を実施しています。今後は共通テスト・私立一般入試・国公立大学二次試験対策を中心に、進路実現に向け、学校全体で取り組んでいます。

令和2年度 佐用高校生の活動状況

1 運動部(主な戦績)

- 男子バスケットボール
  - 県総体代替大会
  - 一回戦 3774 夢前
  - 二回戦 8635 姫路別所
- 女子バスケットボール
  - 県総体代替大会
  - 一回戦 3774 夢前
  - 二回戦 8635 姫路別所

《バドミントン》

- 西播新人大会(個人の部)
- 男子ダブルス 宮部・中嶋組
- 男子シングルス 第10位(県新人大大会出場)
- 宮部尋翔 ベスト16
- 女子ダブルス 小林・三木組
- 女子シングルス 第5位(県新人大大会出場)

《バレーボール》

- 県新人大会(団体の部)
- 男子ダブルス 宮部・中嶋組 ベスト32
- 男子ダブルス 小林・三木組 ベスト32
- 女子ダブルス 小林・三木組 ベスト32
- 西播新人大会(団体の部)
- 女子 第3位(県新人大大会出場)

《男子バレーボール》

- 西播リーグ交流戦
- 3部リーグ
- 5位(昇格等無し)
- バレーボール選手権大会
- 兵庫県予選大会西播地区予選
- 2・0 上郡
- 0・2 龍野北
- 第5代表決定戦 相生産業
- 1・2

《女子バレーボール》

- 西播高校バレーボールリーグ交流戦(5部)
- 0・1 県立大付属
- 0・1 姫路飾西
- 0・1 上郡
- 0・1 網干
- 1・0 賢明
- 1・0 寶明
- バレーボール選手権大会
- 兵庫県予選大会西播地区予選
- 0・2 赤穂

《卓球》

- 県総体代替大会西播地区大会
- 男子一回戦 姫路工業
- 男子一回戦 0・5 姫路工業
- 男子シングルス 溝口
- 県新人大会西播予選
- 男子一回戦 0・5 飾磨工業

《陸上競技》

- 西播ユース陸上競技対抗選手権大会
- 2年男子砲丸投 立巳 隆規
- 2年男子円盤投 立巳 隆規
- 2年女子走高跳 清名 華恋
- 6年男子やり投 友優
- 1年男子やり投 友優
- 上記3名 県ユース大会出場
- 西播高等学校ジュニア
- 陸上競技対抗選手権大会
- 男子砲丸投 立巳隆規
- 男子円盤投 立巳隆規
- 男子5位 立巳隆規

《野球》

- 夏季高校野球大会(延長10回タイブレーク)
- 一回戦 0・1 上郡
- 秋季高校野球地区大会
- 二回戦 6・11 龍野北
- 敗者復活戦 3・9 市姫路
- 秋季西播地区親善大会
- 二回戦 5・1 上郡・神崎
- 準決勝 12・7 龍野
- 決勝 12・3 県立大付属(7回コールド)

《サッカー》

- 西播リーグ
- 第1節 1・6 エストレラ
- 第2節 0・1 龍野
- 第3節 1・1 市姫路
- 第4節 1・2 福崎
- 第5節 1・1 琴丘B
- 第6節 4・0 姫路工業
- 第7節 4・0 姫路飾西
- 県総体代替大会
- 一回戦 0・2 姫路別所
- 二回戦 0・2 赤穂
- 県選手権大会予選ラウンド
- 二回戦 0・2 相生産業
- 決定戦 0・2 龍野

《ソフトテニス》

- 西播三年生大会
- 団体戦 3・0 姫路商業
- 2位トーナメント 琴丘
- 0・3
- 個人大会(県総体代替大会)
- 高角・阿曾ペア
- 一回戦 3・4 播磨南
- 阿曾・春名ペア
- 一回戦 不戦勝
- 2回戦 1・4 須磨学園
- 一回戦 3・7 北摂三田

《男子ソフトテニス》

- 西播三年生大会
- 団体戦 2・1 龍野北
- 2位トーナメント 網干
- 0・2
- 個人大会(県総体代替大会)
- 金原・竹内ペア
- 一回戦 4・1 鳴尾
- 2回戦 4・0 小野
- 3回戦 1・4 星城
- 松本・河端ペア
- 一回戦 2・4 明石北
- 西播三年生大会
- 団体戦 2・1 相生産業
- 佐用A 3・0 相生産業
- 佐用B 3・0 相生産業
- 佐用C 3・0 相生産業
- 0・3 龍野北
- 0・3 上郡
- 0・3 赤穂B
- 0・3 赤穂C
- 0・3 龍野北A
- 決勝トーナメント
- 佐用A 0・2 赤穂A
- 佐用B 0・2 赤穂B
- 佐用C 0・2 赤穂C
- 後期西播大会は総合3位
- 団体戦 3・0 龍野北
- 個人戦 0・3 網干
- 妹尾・竹内ペア
- 兵庫県高等学校ソフトテニス
- 新人中央大会
- 個人戦 4・2 神戸学院大付属
- 2回戦 2・4 啓明
- 1回戦 4・4
- 2回戦 4・4

《ソフトボール》

- 県総体代替大会
- 一回戦 3・7 北摂三田

《夏季リーグ戦》

- 4・9 琴丘
- 4・7 姫路東
- 12・10 龍野
- 12・6 上郡
- 4・5 姫路
- 1・6 太子

《柔道》

- 部員2名で活動中。
- 部員0名、部員募集中。

《剣道》

- 部員0名、部員募集中。
- 2 文化部(主な活動)
- 高校英語スピーチコンテスト西播支部大会出場
- 神戸日米協会 高校生英語暗誦大会出場

《吹奏楽》

- 兵庫県高等学校総合文化祭吹奏楽部門演奏会
- 第31回アンサンブルコンサート

《美術》

- 兵庫県高等学校総合文化祭出品予定
- 巨大絵馬制作予定

《華道》

- 年度当初予定されていた行事は、中止となりました。
- 巨大絵馬制作予定

《茶道》

- 年度当初予定されていた行事は、中止となりました。

《書道》

- 第44回兵庫県高等学校総合文化祭書道展兼第66回兵庫県高等学校書道展
- 第36回成田山全国読書大会

《科学同好会》

- 千種川水質調査(8月)参加
- 千種川水生生物調査(9月)参加

《コンピュータ同好会》

- ワープロ検定の勉強

《放送》

- 体育大会放送及び司会進行
- オリーブハイスクール学校紹介映像作成
- 人権まちづくりフェスタさよう司会進行

《生徒会》

- 交通安全マスコット配布
- JRマナーアップキャンペーン
- あいさつ運動

《家庭クラブ》

- 6月 前期家庭クラブ総会
- 7月 交通安全マスコット配布
- 8月 交通安全マスコット配布
- 9月 交通安全マスコット配布
- 10月 交通安全マスコット配布
- 11月 交通安全マスコット配布
- 12月 交通安全マスコット配布
- 1月 交通安全マスコット配布
- 2月 交通安全マスコット配布

《学校家庭クラブ》

- 6月 前期家庭クラブ総会
- 7月 交通安全マスコット配布
- 8月 交通安全マスコット配布
- 9月 交通安全マスコット配布
- 10月 交通安全マスコット配布
- 11月 交通安全マスコット配布
- 12月 交通安全マスコット配布
- 1月 交通安全マスコット配布
- 2月 交通安全マスコット配布

《ボランティア活動》

- 今年度は、コロナウイルス感染拡大のため、東日本大震災復興支援ボランティア活動は中止

# 令和2年度 在籍生徒数

(11月1日現在)

学 年	1 年			2 年			3 年			計			学級数
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
普通科	59	58	117	58	48	106	59	54	113	176	160	336	10
農業科学科	32	8	40	28	5	33	31	4	35	91	17	108	3
家政科	0	39	39	0	35	35	0	32	32	0	106	106	3
合計	91	105	196	86	88	174	90	90	180	267	283	550	16

## 進路状況 令和元年度(72回生)進路状況

	合計			農業科学			家政			普通			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
卒業者数	120	101	221	29	8	37	3	33	36	88	60	148	
進学	大学(通信制含む)	35	11	46	2	0	2	0	1	1	33	10	43
	短期大学	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	専修・各種学校	27	53	80	5	3	8	2	20	22	20	30	50
	その他・未定	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
計	63	65	128	7	3	10	2	21	23	54	41	95	
就職	民間企業	48	31	79	20	5	25	1	10	11	27	16	43
	公務員	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	3
	縁故	5	0	5	2	0	2	0	0	0	3	0	3
職	家事手伝い・その他	1	5	6	0	0	0	0	2	2	1	3	4
	計	57	36	93	22	5	27	1	12	13	34	19	53

《読書感想文》  
 ○令和2年度播磨西高校読書感想文コンクール応募  
 ○《作文発表等》  
 ○人権さよ  
 1年 齋藤 寧々

○21年  
 第1回  
 塩田  
 華梨

○20年  
 権ま  
 ち齋藤  
 悠明  
 くる

○20年  
 森川  
 づり  
 エスタ  
 2020

## 令和元年度 同窓会会計決算書

収入総額 5,619,291円  
 支出総額 3,241,169円  
 差引残額 2,378,122円 … (次年度へ繰越)

### 収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
繰越金	2,736,712	2,736,712	0	
会費	2,185,200	2,146,200	△ 39,000	300円×7,154人(延べ人数)
入会金	194,000	194,000	0	1,000円×194人
雑収入	284,088	542,379	258,291	寄付金・同窓会名簿売上・預金利息
計	5,400,000	5,619,291	219,291	

### 支出の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	残 額	摘 要
会議費	110,000	64,000	46,000	総会会議費
部活動後援会費	300,000	300,000	0	部活動後援会補助金
負担金	700,000	700,000	0	佐用高校を育てる会補助金 国際交流委員会補助金
通信費	50,000	10,470	39,530	切手代 総会資料等発送郵券代
広報費	1,700,000	1,955,269	△ 255,269	「塔陵」創立110周年記念号16,000部発行、寄稿者謝礼、発送料
支部活動費	380,000	0	380,000	
体育奨励費	60,000	5,000	55,000	令和元年度卒業生同窓会長賞記念品 図書カード(1名)
旅費	50,000	0	50,000	
会館維持費	724,000	6,609	717,391	塔陵館トイレスリッパ
雑費	50,000	0	50,000	慶弔費
ボランティア活動費	200,000	112,341	87,659	東北震災復興支援活動補助金
予備費	1,076,000	87,480	988,520	楽器リース料
定期預金への組替え	0	0	0	積立金
計	5,400,000	3,241,169	2,158,831	

# 同窓会の動き

副会長 福本 美昭

高校21回生(昭和四十四年卒)

令和2年 4月8日(水) 第75回生 入学式

7月1日(水) 第1回 本部役員会

10月12日(月) 第1回同窓会報「塔陵」

第42号編集委員会

12月2日(水) 第2回同窓会報「塔陵」

第42号編集委員会

令和3年 1月1日(金) 同窓会報「塔陵」

第42号発行

2月26日(金) 第73回生 同窓会入会式

2月27日(土) 第73回生

卒業証書授与式

## 塔陵会 会員の皆様へ

いつも同窓会報「塔陵」をご愛読いただき、ありがとうございます。

年一回の発行ですが、回を重ねて42号を迎えることができました。

会員同士の繋がり、そして母校の現況をお届けできる会報を目指していますが、もっと広く会員からの投稿を募ってはとの声があり、次号(2022年1月発行予定)に向けて、皆様からの懐かしい学生時代の思い出、卒業されてからの人生経験、後輩に向けてのメッセージ等、何なりとお話しただければと思います。

是非、皆様からの投稿をお待ちしています。

## 令和2年度

## 新役員・新代議員

### 【同窓会本部役員】

会長 谷本 孝美

副会長 福本 美昭

幹事 小淵 雅昭

幹事 三林 君彦

幹事 分角 彰宏

校長 西田 和美

教頭 徳永 一彦

教職員 春名 隆史

事務局長 田中 昌樹

事務局長 上村 洋行

事務局長 鎌田 威彦

事務局長 谷内 正至

事務局長 竹内 章平

事務局長 光森 貴臣

事務局長 岡田 寛裕

事務局長 藤木 子輝

### 令和2年度職員人事異動

#### ◎転退職(新所属)

永井 秀明

ひょうご環境体験館

副館長

馬場 英昭

退職

西口 憲二郎

飾磨工業高校(多)

浅見 俊明

東播工業高校

伊賀 友映

赤穂 友映

清水 友映

農業高校

齊藤 恵

相生産業高校

小林 史歩

武庫之荘総合高校

児寫 康之

龍野北高校

嵯峨山 恭史

相生産業高校

赤瀬 颯一

伊和高校臨時講師

日下 茜

山崎高校(新採用)

吉田 仁志

但馬農業高校

柏原 のぞみ

播磨特別支援学校

臨時実習助手

#### ◎転入(旧所属)

田口 一仁

事務局長

相生産業高校

片淵 貴史

山崎高校

竹内 駿平

農業高校

丸谷 沙希

相生産業高校

黒田 貴士

新規採用

本田 一雅

新規採用

多々良 理奈

新規採用

寺西 勇司

臨時教諭

琴川 加代子

臨時講師

高橋 智美

臨時講師

植田 由衣香

臨時講師

今井 佳代子

臨時講師(養護担当)

光森 章貴

但馬農業高校

森川 映見

臨時実習助手

大西 琢登

事務職員新規採用

中嶋 秀彰

臨時校務員

東道 恵子  
赤穂特別支援学校  
事務局長昇格

林 邦浩  
山崎高校  
臨時校務員

田口 一仁  
事務局長

相生産業高校

片淵 貴史  
山崎高校

竹内 駿平  
農業高校

丸谷 沙希  
相生産業高校

黒田 貴士  
新規採用

本田 一雅  
新規採用

多々良 理奈  
新規採用

寺西 勇司  
臨時教諭

琴川 加代子  
臨時講師

高橋 智美  
臨時講師

植田 由衣香  
臨時講師

今井 佳代子  
臨時講師(養護担当)

光森 章貴  
但馬農業高校

森川 映見  
臨時実習助手

大西 琢登  
事務職員新規採用

中嶋 秀彰  
臨時校務員

## 追悼

ご逝去されました同窓会員の皆様にご哀悼の誠を捧げるとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

## 同窓会ニュース

同窓会のホームページを開設しました。内容は同窓会ニュース、同窓会だより(同窓会報「塔陵」)も掲載中です。是非ご覧ください。

\*ホームページアドレス

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~sayo-hs/dosokai/index1.html>

## 佐用高校イメージキャラクター



さっちゃん



ぶっちゃん



うっちゃん